

クビアカお役たち情報

クビアカツヤカミキリ
被害対策の手引書
(行政担当者・施設管理者の皆様へ)

2019年7月改訂
地方独立行政法人
大阪府立環境農林
水産総合研究所



【動画】クビアカツヤ
カミキリについて知ろう

『生態編』 『ネット巻編』 『被害樹処分編』

地方独立行政法人
大阪府立環境農林
水産総合研究所



ご紹介

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
生物多様性センター

在来生物の調査・保全や外来生物の影響
評価と対策など、生物多様性に関する調査
研究に取り組んでいます。
施設はご自由に見学いただけますので、
ぜひお越しください！



クビアカのフラス



特定外来生物
クビアカツヤカミキリ
の脅威と対策
～被害と防除の最前線～

2019.
7.31.
Wed.

【講演会】13:00～15:30

大阪府立大学I-siteなんば (大阪市浪速区敷津東2-1-41南海なんば第1ビル)

開会挨拶 13:00～

上原 一彦(大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター長)

基調講演 13:05～

「最近大阪府周辺に侵入した外来昆虫とその影響」

平井 規央(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)

事例紹介 13:30～

「ウメ・モモ・サクラを加害する外来種クビアカツヤカミキリの
関東地方における被害」

加賀谷 悦子(森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林昆虫研究領域
穿孔性昆虫担当チーム長)

「徳島県内モモ産地におけるクビアカツヤカミキリの発生状況と
防除対策について ～クラウドファンディング調達資金の活用事例」

中野 昭雄(徳島県立農林水産総合技術支援センター 高度技術支援課 副課長)

「大阪府内のサクラ被害の現状と化学農薬を用いた防除の可能性」

山本 優一(大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部防除グループ 副主査)

【現地見学会】16:30～17:30(講演会后バスで移動)

大阪府立環境農林水産総合研究所 (羽曳野市尺度442)

※解散はなんば駅(18:30予定)

【主催】大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター／大阪府立大学生命環境科学研究科

日本生態学会近畿地区会

【後援】大阪府





最近大阪府周辺に侵入した外来昆虫とその影響

平井 規央

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授

奈良県出身。専門は、昆虫生理・生態学。希少野生動物、昆虫などの保全生物学的研究や外来種の生活史と防除に関する研究を行っている。環境省の特定外来生物等分類群専門家グループ会合（昆虫類）の委員も務めている。



日本に定着した昆虫の国外来種は200種以上といわれ、現在も増え続けています。これらの中には、生態系への影響が大きいものも含まれています。また、近年はヒアリの侵入などによって、外来種に関する社会の関心も高まりつつあります。昆虫類では、特定外来生物として現在までに21種が指定されています。その内訳は、コウチュウ目が14種（マルバネクワガタ属10種、テナガコガネ類3種、クビアカツヤカミキリ）、ハチ目が6種（アリ科4種、セイヨウオオマルハナバチ、ツマアカスズメバチ）となっています。

大阪府は港湾部に面し、輸送や交通の要所でもあり、セアカゴケグモをはじめ、いくつかの外来種が初めて見つかった場所でもあります。本講演では、最近侵入・定着が確認された、ムネアカオオクロテントウ、アカハネオンブバッタ、クスベニヒラタカスミカメ、ムネアカハラビロカマキリなどについて、分布拡大の状況や影響についてお話しします。また、堺市で実施したクビアカツヤカミキリの生息調査の様子について紹介します。



ウメ・モモ・サクラを加害する外来種クビアカツヤカミキリの関東地方における被害

加賀谷 悦子

森林研究・整備機構 森林総合研究所
森林昆虫研究領域 穿孔性昆虫担当チーム長

博士(農学)森林科学専攻。木の中にいる虫の研究を20年ほどしてきました。2017年から現職。2018年からクビアカツヤカミキリの防除法開発事業の研究統括を務めています。現場の人に役に立つ研究ができたと思います。

クビアカツヤカミキリが日本で最初に見つかったのは2011年、埼玉県深谷市になります。その後、関東地方では群馬県、栃木県、東京都で被害が発生しています。被害地ごとに問題となっている樹種には偏りがあり、栃木ではモモの果樹害虫としての側面が強い一方、群馬や埼玉ではサクラの被害が多く問題となっています。被害地は大きく、北関東（群馬、栃木、埼玉の3県境周辺）、埼玉南部、東京都市部に分かれ、それぞれの間であまり本種の移動はなさそうです。本種は蛹室を木部深くに作り、その中に入ってしまうと外から見つかりにくいのです。そのため、割材したバラ科樹木の輸入とともに、関東の3被害地に侵入が生じてしまったのでしょう。被害地ごとの被害程度がさまざま、局的なところから広域となっているところまでありますが、いずれでも拡散を封じ込められてはいません。多くの人の目と手が、初期防除の徹底には必要です。市民、行政、研究の連携が本種の蔓延を防ぐ鍵となると考えています。



徳島県内モモ産地におけるクビアカツヤカミキリの発生状況と防除対策について～クラウドファンディング調達資金の活用事例

中野 昭雄

徳島県立農林水産総合技術支援センター 高度技術支援課 副課長

徳島県出身。1988年、徳島県庁に入庁。現在に至るまで、通算で24年間、主に野菜害虫のIPMに関する試験研究に従事。2015年の本虫の発生確認以降、防除対策に取り組む。現在は普及組織の一員として、防除方法等を現場で指導中。

徳島県内でのクビアカツヤカミキリによる被害は、2015年7月にモモ、ウメ、サクラで初めて確認されました。当時は、駆除や拡大を阻止するための情報がほとんどなく、手をこまねいているだけでした。このような中でまず実施したのが化学農薬の登録に向けた効果試験です。幼虫に対しては現場で収穫を終えた被害樹を対象に試験を実施することができましたが、成虫は試験材料を大量に確保することが必要でした。しかし、そのためには、現場で捕獲するしかなく、それには時間と手間がかかることがネックとなっていました。このため、クラウドファンディングで調達した資金を活用し、募集した学生らが捕獲した成虫を1頭500円で買い取ることにしました。その結果、2年間で約2,600頭の成虫を捕獲することができ、それを利用し化学農薬の効果試験を実施しました。また、得られた捕獲データを整理することによって発生消長や園毎の発生分布を把握することができました。

本講演では、本県モモ産地における発生状況とともに、上記の詳細な実施過程やその他に取り組んだ防除対策を紹介します。



大阪府内のサクラ被害の現状と化学農薬を用いた防除の可能性

山本 優一

大阪府立環境農林水産総合研究所
食と農の研究部 防除グループ 副主査

京都府出身。2015年から現職。2017年に大阪府内のサクラのクビアカ被害状況調査を開始し、2018年からは防除技術の開発に従事。



大阪府内では2015年に初めてクビアカツヤカミキリによるバラ科樹木の被害が確認されました。その後、都市部の公園や街路に植栽されているサクラ類を中心に被害が拡大しています。

本講演では、サクラ類の被害状況調査の結果から、大阪府内の被害の現状や、被害を受ける樹木の特徴を話します。次に、現在のクビアカツヤカミキリ防除技術とその課題を整理した上で、サクラ類における化学農薬（殺虫剤）の使用を軸とした防除について検討します。

サクラ類での薬剤防除に関しては、今年度から樹幹注入剤と散布剤の使用が可能になりました。樹幹注入剤は、樹幹の地際付近に穴を開けて薬剤を注入し、樹木全体への薬液の浸透により、樹内部の幼虫に防除効果を発揮する農薬で、今春に当所で実施した効果試験の結果を紹介します。散布剤は、樹全体に薬剤を散布し、樹に飛来した成虫への防除効果が期待される農薬で、使用時期や頻度について、大阪府内の成虫の発生時期等をふまえます。